

リユースハウス 古材と古民具

1. 事業実施団体

【NPO 法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会（鳥取市）】

地域住民、とりわけ子どもたちが住み続けたいと思える地域とすることを旨とし、空き家活用や景観形成、伝統文化や芸術等の振興、耕作放棄地対策など、地域資源を活かした魅力ある地域づくりに取り組むことを目的として設立された団体。

2. 県の協働担当課

【中山間・地域振興課】

特色ある地域づくり、買い物環境の確保、地域交通や空き家対策及び利活用など、市町村と連携しながら中山間地域の振興に向けた様々な施策を行っている部署。

3. 課題及び目的

人口減少や高齢化により、全国的に空き家の増加が課題となっている。平成26年に「空き家等対策の推進に関する特別措置法」が制定され、鳥取県でも空き家対策へ積極的に取り組み、解体される空き家件数は増加傾向にあるが、空き家の片付け時や解体時に発生する家財等の処分には多額の費用と労力を必要とするため、空き家対策を阻害する要因となっている。

鹿野町は古くからの街並みを維持し古民家も数多く存在しているが、今後は解体されるケースも増えてくることが想定される。このような空き家には、地域の風土や歴史を伝える魅力ある古材や古民具等（以下、「古材等」という。）が残されていることも少なくないため、空き家の片付け時や解体時に発生する古材等を保管する仕組み、新たな価値を見出すアップサイクルの手法等を検討して、空き家の利活用や地域の賑わい創出につなげる仕掛けづくりを検討することを目的とした。

4. 課題解決の手法

(1) リユースハウス事業の立ち上げに向けた検討

- ・ 空き家の古材等を資源化する「リユースハウス」の先進事例として「リビルディングセンター」（長野県諏訪市）や「GASUKI BASE」（兵庫県尼崎市）などを視察研修。
- ・ 行政をはじめ、企業、大学、地域、関係事業者等と連携して、安定的な資材の確保、協力人材の確保、阻害要因等の排除などについて協議し、事業可能性について検討を進める。



リビルディングセンター

(2) リユースハウスの改修、関連イベントの開催

- ・ 活動拠点となる店舗の検討（計画策定）。協力店舗決定後、片付け及び一部改修を行う（事業策定）。
- ・ 試験販売によるニーズ調査やワークショップで意見交換を行い、古材等の活用可能性を探る。



工務店倉庫内(改修前)

5. 主な役割分担

【事業実施団体】

- ・ リユースハウス事業の立ち上げに向けた検討・運営
- ・ 古材等の回収方法や体制の検討
- ・ 回収資材の清掃、修理、加工等によるリユース化
- ・ アップサイクル手法の確立、商品づくり
- ・ 価格設定、顧客確保、ネット販売の仕組みの構築
- ・ 工務店、解体事業者、資材提供者等との関係構築

【行政】

- ・ リユースハウス事業の立ち上げに向けた助言・支援
- ・ 空き家解体や古物販売等に関する法規制や許認可等の整理、関係機関との調整、事業推進に関する阻害要因の排除支援
- ・ 関係事業者、専門家等の紹介、相談体制の構築支援



提供された古民具、家財等

6. 取組と成果

(1) リユースハウス事業の立ち上げに向けた検討

- ・視察研修では、古材等の回収からリユース、販売まで行う仕組みについて学べ、事業計画の参考とすることができた。
- ・日本能率マネジメントと連携して企業研修「ことらぼ」を開催し、都市部の企業リーダーと空き家再生をテーマとした提案型の話し合いを行い、事業可能性について検討を深めた。
- ・大阪公立大学の協力が得られ、同大学の学祭「银杏祭」で「蚤の市」を開催し、ニーズや価格設定など事業可能性を探ることができた。
- ・古材等の確保については、工務店の所有する古材、当該団体が空き家から回収した古民具、個人からの提供などでストックできたものもあるが、今後は継続的にこれらを集めるネットワークづくりの検討が必要。また、ストック品の清掃はできたものの、修理・加工まではできなかったため、付加価値創出の仕組みを構築していく必要がある。運営への参加や協力の希望を示す方もあり、運営体制について協議していく必要がある。
- ・解体業者に聴き取りを行ったが、現状として解体時の古材のリユース取扱いがないことを確認した。解体時の古材等の確保に協力いただける業者を模索する必要がある。
- ・ネット販売については、ネット販売アドバイザーからノウハウを学ぶことができたため、ホームページ開設を目指す。



企業研修「ことらぼ」の研修の様子



大学祭で「蚤の市」を開催



企業研修「ことらぼ」の事業提案

(2) リユースハウスの改修、関連イベントの開催

- ・地元工務店の協力が得られ、同店の倉庫を借用することができ、倉庫内の片付け及び一部改修を行った。ワークショップやアップサイクルの活動を行う拠点となる「リユースハウス」が完成したことにより事業の進展が期待できる。
- ・本拠点で試験的に実施した「鹿野蚤の市」では、Instagramによる情報発信、チラシ配布などを行い、価格設定は視察や試験販売を参考に地域おこし協力隊と協力して行った。2日間で700～800人と想定を超える集客と売り上げがあり、古材等へのニーズと期待の高さを伺うことができた。
- ・古民具、食器、レトロな小物などが売れたが、古材・家具の売れ行きは低調だった。古材・家具は持ち帰りの負担等があり購入に至らなかったと思われる、引取や配送の仕組みについて検討する必要がある。また、試験販売で提供する品物のアップサイクルまではできなかったため、アップサイクルの手法（従来の用途で再利用、新たな用途で再利用、手を加えて異なる用途で再利用など）の習得や、アイデアやデザインを検討する必要がある。



「鹿野蚤の市」チラシ



リユースハウスでワークショップを開催



来場者で賑わう「鹿野蚤の市」



7. 事業終了後の状況

- ・ ネット販売、古材等の提供者のネットワーク構築、顧客確保などについて、市場性を見極めることができたことに加え、課題の整理を行うことができ、事業の確立や展開を見通せた。収益力の強化を図るため、ネット販売についての検討を進め、令和6年度中のスタートを目指す。
- ・ 古材等の回収は、空き家の所有者の労力や処分費用の負担減につながり、空き家問題の解決の一助となっている。
- ・ 行政をはじめ、企業、大学、地域おこし協力隊など、様々な組織と連携して事業を実施することができたことで、需要の把握や資材の確保、販売機会の増加などの取組に広がりが見られており、今後の協力体制の構築にもつながっている。
- ・ 比較的小規模の団体でも取り組み、空き家利活用に関連した事業モデルとして期待される。